

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名 地域高規格道路 富山外郭環状道路 一般国道8号 豊田新屋立体	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北陸地方整備局				
起終点 自：富山県富山市小西 至：富山県富山市粟島町		延長 2.9km				
事業概要 豊田新屋立体は、地域高規格道路富山外郭環状道路を構成する一部として、「交通渋滞の解消」、「死傷事故の削減」、「幹線ネットワークの強化」などを目的とした、延長2.9kmの交差点立体化事業である。						
H21年度事業化		H20年度都市計画決定				
全体事業費 約230億円		事業進捗率 3%				
計画交通量 48,700～50,500 台/日		供用済延長 - km				
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C (事業全体) 6.1 (残事業) 6.3 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 (残事業)/(事業全体) 174/180 億円 (事業費 : 161/167億円 維持管理費 : 13/13億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 (残事業)/(事業全体) 1,095/1,095 億円 (走行時間短縮便益 : 926/926億円 走行経費減少便益 : 123/123億円 交通事故減少便益 : 47/47億円) </td> <td style="text-align: center;"> 基準年 平成23年 </td> </tr> </table>	B/C (事業全体) 6.1 (残事業) 6.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 174/180 億円 (事業費 : 161/167億円 維持管理費 : 13/13億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,095/1,095 億円 (走行時間短縮便益 : 926/926億円 走行経費減少便益 : 123/123億円 交通事故減少便益 : 47/47億円)	基準年 平成23年	
B/C (事業全体) 6.1 (残事業) 6.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 174/180 億円 (事業費 : 161/167億円 維持管理費 : 13/13億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,095/1,095 億円 (走行時間短縮便益 : 926/926億円 走行経費減少便益 : 123/123億円 交通事故減少便益 : 47/47億円)	基準年 平成23年			
感度分析の結果 (事業全体) 交通量 : B/C= 2.1～ 7.0(交通量±10%) (残事業) 交通量 : B/C= 2.2～ 7.3(交通量±10%) 事業費 : B/C= 5.6～ 6.7(事業費±10%) 事業費 : B/C= 5.8～ 6.9(事業費±10%) 事業期間 : B/C= 5.8～ 6.5(事業期間±20%) 事業期間 : B/C= 6.0～ 6.7(事業期間±20%)						
事業の効果等 ① 新幹線駅である富山駅へのアクセス向上 ・富山市内唯一の新幹線駅である富山駅へのアクセス性が向上 ② 国際拠点港湾伏木富山港へのアクセス向上 ・富山市の工業集積地から伏木富山港へのアクセス性が向上し、物流の効率化を支援 ③ 日常活動圏中心都市間のアクセス向上 ・日常生活圏中心都市（富山市～滑川市間）のアクセス性が向上 ④ 第三次救急医療施設への命の道としてのアクセス向上 ・第三次救急医療施設（富山県立中央病院）への搬送時間が短縮し、救命率が向上 ⑤ 緊急輸送道路としての役割 ・第一次緊急輸送道路としての位置づけがある、国道8号の緊急通行確保路線としての信頼性が向上						
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： ・国道8号は、北陸地方にとって人の交流や物流を支える大動脈であり、県、市の社会経済活動に必要不可欠な広域幹線道路であるが、豊田東、新屋交差点などで慢性的な交通渋滞が発生し広域幹線道路としての役割を十分に果たしていないことから、富山市や富山外郭環状道路整備促進期成同盟会より豊田新屋立体の整備促進の要望を受けている。						
県知事の意見 ： ・事業継続に同意する。 ・今後とも、コスト縮減に努め、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段の配慮を願いたい。						
事業評価監視委員会の意見 ・審議した結果、再評価及び対応方針（原案）の「事業継続」は妥当である。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 事業区間では、朝ピーク時に依然として交通渋滞が発生している。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 地元と調整を図りつつ、現在まで路線測量、地質調査、道路予備設計、橋梁予備設計を実施している。今後は、地元と設計協議を進め、早期の完成を目指す。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 富山県、富山市など、関係する地方公共団体から早期整備の要望を受けており、引き続き早期供用を目指して事業を実施する。						

施設の構造や工法の変更等

今後実施する詳細設計において、新技術を積極的に活用することでコスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

【広域位置図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。